気候情報

2006年７月の日本の天候

各地で大雨（東・西日本），日照少ない（東・西日本）

７月の天気概況

梅雨前線が本州付近に停滞したため，南西諸島を除いて曇りや雨の日が多かった．梅雨前線の活動が活発だったため，各地でたびたび大雨となり，洪水や土砂災害等が発生した．特に中旬後半から下旬前半にかけては，梅雨前線がゆっくりと南下したため，山陰地方，北陸地方，長野県及び九州地方では記録的な豪雨となり，甚大な被害が発生した．この15日から24日にかけての大雨について，気象庁は「平成18年７月豪雨」と命名した．なお，梅雨前線が下旬まで本州付近に停滞したため，東・西日本の梅雨明けは平年よりかなり遅れた．

上旬：梅雨前線が本州付近に停滞したため，東日本と西日本では曇りや雨の日が続いた．２日および５日から６日にかけては梅雨前線上を低気圧が通過し，各地で大雨となった．また，８日から９日にかけては台風第３号が南西諸島を通過し，暴風や大雨となった．**旬平均気温**は，北日本と西日本で平年並，東日本で高く，南西諸島ではかなり高かった．**旬降水量**は，西日本，南西諸島と東日本日本海側で多く，北日本と東日本太平洋側は平年並だった．**旬日照時間**は，北日本日本海側と南西諸島で平年並，北日本太平洋側と東日本で少なく，西日本はかなり少なかった．

中旬：台風第３号が10日～11日にかけて朝鮮半島を通過した後，15日にかけては梅雨前線は東北地方まで北上した．このため，西日本から関東にかけては太平洋高気圧に覆われて晴れて暑くなる一方，東北南部や北陸では12日～13日にかけて大雨となった．また，台風第４号が13日～14日にかけて先島諸島を通過し，暴風や大雨となった．15日～20日かけては，活動が非常に活発となった梅雨前線が日本海から九州へとゆっくりと南下し，各地で大雨が降り続いた．特に17日～19日にかけては，山陰から北陸，長野県にかけて記録的な大雨となった．**旬平均気温**は，北日本と西日本で高く，東日本で平年並，南西諸島では低かった．**旬降水量**は，北日本日本海側と東日本でかなり多く，西日本と南西諸島で多かった．北日本太平洋側では平年並だった．**旬日照時間**は，全国的に少なく，北日本日本海側と東日本日本海側ではかなり少なかった．

下旬：梅雨前線は21日から25日にかけて九州から本州南岸に停滞し，特に21日から23日にかけては活動が非常に活発で九州で記録的な大雨となった．26日以降梅雨前線は次第に北上し，北陸付近に停滞した後，30日には日本付近では活動が弱まり消滅した．26日に九州と四国で，30日には中国，近畿，東海，北陸，関東甲信地方で梅雨明けとなったが，北日本にはオホーツク海高気圧が張り出し，太平洋側を中心に低温となった．**旬平均気温**は，北・東・西日本で低く，南西諸島では高かった．**旬降水量**は，東日本日本海側でかなり多く，西日本でも多かった．北日本と東日本太平洋側は平年並，南西諸島では少なかった．**旬日照時間**は，東日本で少なく，北日本と西日本で平年並，南西諸島では多かった．

７月の気候統計

月平均気温：東北地方と北陸地方では低かったが，九州北部地方では高く，九州南部地方ではかなり高かった．そのほかの地域では平年並だった．

月降水量：東北地方から西日本にかけて多く，特に日本海側ではかなり多かった．一方，北日本と南西諸島では平年並だった．東北地方南部から西日本にかけては平年の170％以上となった地点が多かった．

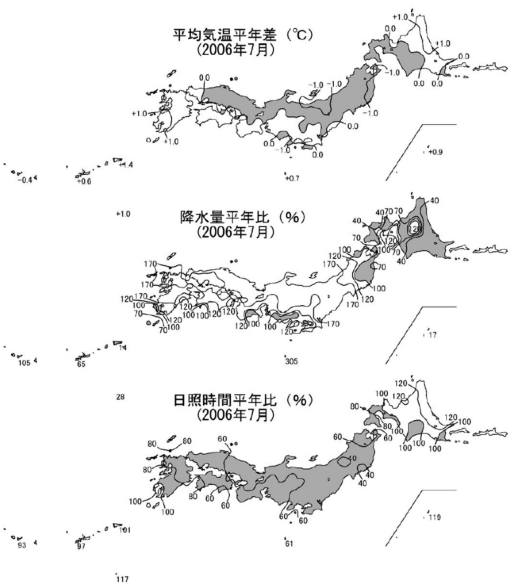
月間日照時間：北海道と南西諸島で平年並だったが，そのほかは少なかった．東北地方から四国地方にかけてはかなり少なく，東北地方と関東地方では平年の60％未満となったところが多かった．特に，東北地方の一部では平年の40％未満となった．

（気象庁観測部統計室）

７月の記録（１位更新のみ）

- **月平均気温高い方から**（℃）
  名瀬 29.8
- **月降水量多い方から**（mm）
  福井 637.0　松本 366.5　諏訪 506.5
  阿久根 1133.0　人吉 1182.0　など８地点
- **日照時間少ない方から**（時間）
  盛岡 64.1　新潟 98.3　勝浦 71.8　など９地点

2006年７月の平年差（比）図



注）陰影の部分は，平年より低い（少ない）地域を示す．